

プレスリリース

「公共建築はみんなの家である」展開催

京橋のLIXILギャラリーで4月中旬より予定されていた本展は、新型コロナウイルスの影響などで実施を断念せざるを得ませんでした。今回杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」のご厚意により、7月1日（水）から同館ギャラリーにて開催することになりました。

本展では、私共が手掛けた4つの公共建築、「せんだいメディアテーク」（2000年竣工・宮城県）、「まつもと市民芸術館」（2004年・長野県）、「座・高円寺」（2008年・東京都）、「みんなの森 ぎふメディアコスモス」（2015年・岐阜県）を取り上げ、その賑やかさを演出してきた人々へのインタビュー、及びスタッフや利用者の声を通して、今日の公共建築の意義とこれからのあるべき姿を考えることを試みております。

是非皆様にご覧いただきたく、ご案内申し上げます。

記

会場	座・高円寺 ギャラリーアソビバ（地下2階）
住所	東京都杉並区高円寺北 2-1-2
会期	2020年7月1日（水）～8月16日（日）
開館時間	9:00～22:00
入場料	無料
主催	株式会社伊東豊雄建築設計事務所



せんだいメディアテーク



みんなの森 ぎふメディアコスモス
photo: Kai Nakamura



まつもと市民芸術館



座・高円寺

【伊東豊雄からのメッセージ】

私達は30年に亘って国内外の公共建築の設計に携わってきました。当初、「西欧では公共建築に関わらない建築家は建築家として認められない」といった言葉を信じ、公共建築の設計に関わることに固執していました。

しかしいざ参加してみると、次第に日本の公共建築の問題が明確に浮かび上がってきました。管理意識が強く、利用者にとっては必ずしも望ましい建築がつくられていないと気付いたのです。では利用者にとって望ましい建築とはどのような建築でしょうか。

利用者にとって望ましい建築とは、毎日でも行きたくなる建築です、毎日でも行きたくなるのは、行くのが楽しい建築、居心地の良い建築だからです。

しかし我が国の公共建築は、利用者にとって楽しい建築、居心地の良い建築をつくろうとするよりも機能的な建築、管理しやすい建築をつくろうとする傾向が強いように感じられます。

「機能」という概念は20世紀以来の近代主義建築にとってきわめて重要な言葉です。「機能」は機械を構成する部品の性能とか効率のようなものはたらきを指す概念です。

建築における機能概念は、機械部品のように人々の活動を分割して、それぞれに特化した空間に振り分け、活動別に人々をその空間に入れ込もうとしてしまうのです。

しかし人々の多様な活動を機械部品のように要素に分割し、その組み合わせと考えるのは科学技術に頼る西欧近代主義的思想に他なりません。そうした方法から楽しい空間や居心地の良い空間が生まれるとは思われません。楽しさや心地良さは人間の身体感覚に基づく性質であり、決して機能毎に分割された空間（部屋）から得られるものではありません。

人は屋外、即ち自然の中では機能によって自らの活動を制限されることはありません。自然の中にはさまざまな変化に富んだ場所があります。明るい場所、暗い場所、乾いた場所、じめじめした場所、広い場所、狭い場所等々…。

自然の中で人々は、自分の活動の場所を自由に選ぶことができます。例えば読書をしたい時、人は木陰のベンチで読書することも出来れば、芝生に寝転がって読書することも出来ます。我々は自然の中で読書するような図書館をつくりたいと考えてきました。即ち、建築の内においても特定の部屋に居ることを強要されるのではなく、自然の中にいるようにさまざまな場所を自由に選ぶことが出来る建築、母子も高齢者も一緒にいることが出来る、子供も好き勝手に走り回ることが出来る、そんな公共建築をつくりたいと考えてきました。

私達がこれまで携わってきた公共建築の多くは日々沢山の人が賑わっています。その賑わいは自由に振る舞える場所をつくろうとしてきたからだと思っています。機能にとらわれた部屋に分けてしまうことを極力避けようとしてきたからだと思っています。

私達のつくってきた公共建築の多くで壁が少ないのは、部屋に分節されない流動的な空間の中に、変化に富んだ場所をつくろうと考えたからです。

その結果そのような賑わいの空間では、幼児、主婦、ビジネスマン、学生、高齢者など多くの人々が自由にそれぞれの居場所を定めることが容易になりました。混在している様子は、ゆるやかで、大きな家族の姿を想わせます。

私達が東日本大震災や熊本地震後の被災地でつくった「みんなの家」は、仮設住宅団地を中心に近隣の人々が集まって話し合いや食事をしたり、各種イベントなどの場として活用されています。「みんなの家」は、従来の公共施設のように自治体が内容を予め設定するのではなく、利用者と話し合い、利用者の要望をベースにつくられてきました。これからの公共建築は「みんなの家」のように利用者主体に考えられなくてはならないと思います。

今回の展覧会では、私達がこれまでに設計した4つの公共建築を取り上げ、それらがいかに利用されているかを追求してみました。

とりわけ館長や芸術監督にインタビューを試み、どのような施設を意図しようとしているかを語っていただきました。また利用者やスタッフの人達にもインタビューやアンケートを通じて、実態に迫ろうとしました。こうした試みからこれからの公共建築のあるべき姿を浮かび上がらせたいと考えます。

伊東豊雄

ご質問などございましたら下記までお問合せ下さいますよう、宜しく願い申し上げます。

伊東豊雄建築設計事務所

東京都渋谷区渋谷 1-19-4

TEL: 03-3409-5822 FAX: 03-3409-5969

担当：木下栄理子 (kinoshita@toyo-ito.co.jp)